

新しいこども園を役場庁舎跡地に 1園建設することが最善 こども園の建設

こども園建設及び公共施設等跡地利活用検討委員会の答申

老朽化しているこども園の問題や閉校した学校などを含む公共施設等跡地の利活用を検討するために、各団体等から選出され村長が委嘱した委員で構成する検討委員会が、本年5月から毎月議論を重ねられてきました。

検討委員会委員 (敬称略)

こども園職員	職員	議会	行政区	こども園・学校
蓮田こども園保護者会	蓮田こども園主任	議員	総務経済常任委員長	行政区域長会長
渡邊 徳幸	蓮田こども園主任	議員	文教厚生常任委員長	上蓬田行政区域長
上遠野隆行	蓮田こども園主任	議員	総務課係長	西山二行政区域長
藁谷 桂	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	上蓬田行政区域長
三本松久美子	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	宗像甲子雄
阿部 勝美	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	太田 忠男
荒川 勝吉	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	矢吹 公彦
蓮田小学校PTA	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	瀬谷 一男
小平小学校PTA	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	吉田 好之
ひらた清風中学校PTA	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	阿部 清
蓮田こども園主任	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	遠藤 繁視
佐藤 光代	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	瀬谷 貴之
	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	吉田 盛義
	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	大和田勝正
	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	瀬谷 和枝
	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	小平こども園主任
	蓮田こども園主任	議員	教育課係長	佐藤 光代

8月24日に開催された第4回の検討委員会でもこども園の建設に関する意見がまとまり、翌日、村長に答申書が提出されました。答申された内容をお知らせします。

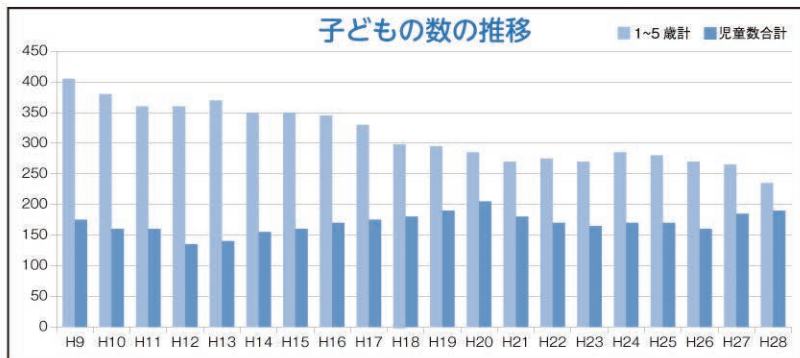


村長に答申書を手渡す
荒川勝吉委員長 (写真左)

《答申書の抜粋》

検討委員会では、これまで4回の会議と古殿町・玉川村こども園の現地視察を行い、子どもの数の推移や施設の現況などを踏まえ、様々な角度からこども園の建設に対して議論を重ねてきました。公共施設等跡地の利活用は引き続き検討を続けていきますが、こども園の建設に関しては、できるだけ早急な実現を図るためにも、先行して答申します。

子どもの数の推移



現在の蓬田・小平こども園は、建築から相当の年数が経過しているため老朽化が激しいうえに狭隘で、子どもたちが伸び伸びと園生活をしているとは言い難い状況にあり、早急な解決が必要と思われます。



蓬田こども園 (旧蓬田保育所: 昭和46年建築)



小平こども園 (旧小平保育所: 昭和47年建築)

両こども園の敷地は、土砂災害警戒区域(土石流・急傾斜地の崩落)に指定されていることに加え、そもそも面積が狭いので、現在地に建設することは困難であります。また、建物は、建築から相当の年数が経過し老朽しているため、大規模改修や増築での対応は非常に困難であります。

まず議論となったのが園数の問題であり、集約して1園とするか、これまでどおり2園とするかの検討を行いました。園数に関する意見は次のとおりです。

【1園とする意見】

- 旧村意識の解消、子育て期において早い段階で保護者の融和が図れる
- 少子化が進んでいるのでやむを得ない

- 将来的には小学校が統合になる可能性があり2園建設してしまうと、後々支障の出る可能性はある

- こども園の運営に良い(職員(保育教諭)の集約で効率的な運営ができ、保護者の希望に添える保育の実現につながる)
- 2園をつくる費用を思えば、1園の立派なこども園をつくった方がよい

【2園とする意見】

- 保護者の送迎は今までより時間がかかる

【2園とする意見】

- 小学校の近くが望ましい
- 保護者の送迎負担が変わらない

【2園とする意見】

- 将来、小学校が統合になった場合、2園建てたことが裏目になる

村内には、学校の空き校舎が複数あり、遊休施設の解消、有効活用につながるので、空き校舎をこども園として利活用することについて意見がありました。

【空き校舎を利用する意見】

● 空き施設の有効活用につながる

● 新築するよりも費用が抑えられ、財政上プラスになる

【空き校舎を利用することのデメリット】

● 既存の校舎では使い勝手が悪く、こども園向きではない

● こども園は平屋づくりが良い

● 空き校舎は複数あるが、どこを利活用しても地域的な偏りが出てしまう

● 空き校舎を改修したこども園では、1園とすることに理解が得られない

● 立派なこども園ができるという前提があつて1園への理解が得られる

● 空き校舎の改修には限界がある

7月26日には、古殿町と玉川村のこども園の現地視察を行いました。施設の概要説明を受けながら、実際に子どもたちが生活している様子を見学しました。

【古殿町 こども園（H26・4開園 古殿保育所・古殿幼稚園を統合）】

定員200人

延床面積約2,100㎡

施設面積約6,000㎡



古殿町のこども園を現地視察

【玉川村 こども園（H28・4開園 泉保育所・いずみ幼稚園・すがま幼稚園を統合）】

定員210人

延床面積約2,900㎡

施設面積約8,900㎡



玉川村のこども園を現地視察

このような意見などを総合的に勘案し、検討委員会としては、こども園を1園とすることと意見がまとまりました。

また、古殿町・玉川村のこども園を現地視察して、新しい施設でのびのびと生活している子どもたちの様子を目の当たりにし、場所的な問題も含め空き校舎の利活用ではなく新築することが望ましいとの結論に至りました。

こども園を1園とする場合、建設場所をどうするかについては、次のような意見がありました。

【建設場所について】

● ひらた清風中学校に近い方が良い

● 村の中心で交通の便利なところ

● よもぎ荘の近くだと幼老連携の相乗効果があるのではないか

● 平らなところ

● 造成工事が必要ないところ

● 1町歩程度の敷地が確保できるところ

● 関係施設の近く

総合的に考えて、役場庁舎跡地が良いのではないかと意

見がありました。役場庁舎跡地の敷地面積は、庁舎の表側・裏側を含めると1町歩を超える面積が確保でき、上記の意見をすべて満たすことが可能なことから、最適地として判断しました。

【結論】

こども園の建設に関しては、役場庁舎跡地を活用して、新たなこども園を1園新築で建設することが最善であることとを答申します。



役場庁舎の跡地

なお、役場庁舎跡地には庁舎や保健センターなどの建物が存在しています。こども園として使用するには、これら建築物の解体などが必要になります。特に、保健センターは現在も利用されていることから、十分に対応策を検討したうえで村民の利用に支障を来さないよう努めてください。

また、こども園の建設が具体化された場合は、他市町村のこども園などを参考にしながら、現場の最前線で働くこ

ども園の職員（保育教諭）の意見を十分に反映して、快適で機能的なこども園が作られることを望みます。

少子化社会のなかで、子どもを安心して産み育てられ、将来の平田村を担う子どもたちが健やかに育つ環境をつくっていくためにも、一日も早いこども園の完成が実現するよう要望し、こども園建設及び公共施設等跡地利活用検討委員会の答申とします。